

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00931

研究課題名(和文)先駆的英国人日本学者による和書の蒐集・活用・譲渡 - 「海外流出和書研究」に向けて -

研究課題名(英文) Japanese books collected, used and handed over by british pioneering japanologists

研究代表者

厩尾 達哉 (TORAO, Tatsuya)

鹿児島大学・法文学部・名誉教授

研究者番号：30164065

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：大英図書館所蔵のサトウ旧蔵書は、aサトウ自身による売却、bアンダーソンによる売却、cパットン牧師による売却の3種存在するが、大英博物館の受け入れ印により、aは1868年、1871年10月3日、1878年7月15日、1884年9月22日、1885年6月13日の4度にわたり、bは1882年7月27日、1894年2月13日、1894年3月21日の3度にわたり、cは1906年4月7日に売却された。また、サトウの2種類の蔵書印はより小さい幅広のA印の方が、より細長い長方形のB印より早く使用されている。さらに日本大学文理学部図書館所蔵のチェンバレンへの譲渡和書にはA印が多い。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀から20世紀にかけてのアーネスト・サトウ、ウィリアム・アストン、バジル・チェンバレンら先駆的英国人日本学者の中で、その中心的位置を占めたのがサトウであり、彼らの日本学研究に大きく寄与したものがサトウの旧蔵和書であったことを明らかにし、さらに彼らがそれらのサトウ旧蔵書を大英博物館やケンブリッジ大学図書館に廉価で売却)することによって英国における日本学・日本理解に貢献しようとしたことを具体的に跡付けた点に学術的意義が存する。また、サトウの蔵書印(A印・B印)の先後をおよその年代と関連付けて論じたことは、今後サトウの日本における和書購入の状況に迫る際の有力な手がかりとなる。

研究成果の概要(英文)：Japanese books with seals of ownership of Ernest Satow in the British Library were transferred to the British Museum by Satow himself, William Anderson and Reverend Patton. The dates are as follows. Satow; 1868, 3 October 1871, 15 July 1878 and 22 September 1884. Anderson; 27 July 1882, 13 February 1894 and 21 March 1894. Patton; 7 April 1906.

Two kinds of Satow's seals of ownership were the oblong one and the smaller (wider) one. As the result of my research, I found out that the latter was used earlier than the former. And I made sure that many books transferred to Bajil Hall Chamberen in Nihon University Library had been sealed by the latter.

研究分野：日英交流史

キーワード：サトウ アストン チェンバレン 先駆的英国人日本学者

1. 本研究開始当初の背景

本研究開始当初においては、すでに関連研究として、研究代表者自身による「アストン旧蔵和書とアーネスト・サトウ - ケンブリッジ大学図書館蔵『アストン和書目録』について・断章」(鹿児島大学人文社会科学研究所紀要『地域政策科学研究』4、2007年)と吉良芳恵「アーネスト・サトウの旧蔵書について(上)(下)」(『日本古書通信』830・831、1998年)があった。前者はケンブリッジ大学図書館蔵『アストン和書目録』所載のアストン旧蔵和書1978点のうち、サトウ蔵書は実に1616点に上り、82%を占めることを明らかにしたものであり、これにより、サトウはアストンのもとより、チェンバレンやアンダーソンに対し、かなり大量の和書を貸与(譲渡)してことが類推された。後者は横浜開港資料館蔵武田家旧蔵資料のうち、「蔵書目録全」所載の1137点のサトウ旧蔵書目のうち114点を紹介したもので、この目録には和書購入時の価格が記載されており、明治4年(1872)の新貨条例を挟む新旧通貨が混在し、サトウの比較的早い和書購入期の推定に貴重な手がかりを与えてくれるものであった。なお、研究代表者はこの「蔵書目録全」およびそれ以前に作成されたとされる「蔵書目録」の原本を調査する予定であったが、ほどなく横浜開港資料館が大規模な改修工事に入って貴重書の閲覧が中止され、また新型コロナの流行にも災いされて、この調査は断念せざるをえなかった。

2. 本研究の目的

本研究の目的は、幕末・明治期におけるサトウ、アストン、チェンバレン、アンダーソンらの先駆的英国人日本学者がいかなる和書を収集し、いかにしてそれを研究に活用したかを明らかにした上で、その膨大な和書が英国人日本学者のネットワークにおいていかなる位置を占めたのかを明らかにし、さらに日本から海外に流出した文物として、美術品ほどには知られていない膨大な和書の存在を広く一般の人々にも発信してゆくことにある。あわせて、開国期「海外和書流出研究」を今後の新たな研究領域として提唱してゆきたい。

3. 本研究の方法

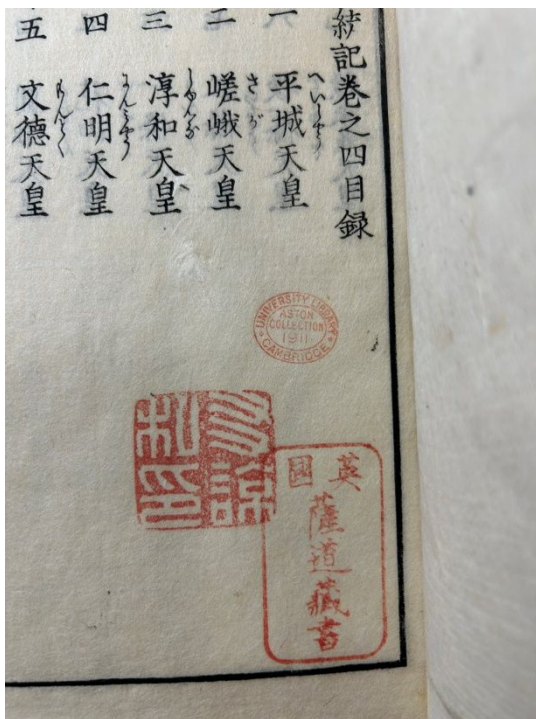
日英両国がの諸機関(横浜開港資料館、日本大学文理学部図書館、大英図書館、ケンブリッジ大学図書館、オクスフォード大学図書館、ブリストル大学図書館ほか)が所蔵する和書を実地に調査し、蔵書印、機関の受入れ印記、付箋、書き入れなどを撮影・保存し、旧蔵者を特定する。旧蔵者が特定された和書の内容、書き入れとその旧蔵者の日本学研究著作とを照合して、英国人日本学者の和書の活用実態を明らかにする。横浜開港資料館および英国国立公文書館が所蔵するサトウの日記、書簡などを調査し、和書の蒐集・活用・譲渡に関連する記事について、撮影・保存または複写して、英国人日本学者らのネットワークの中で和書の蒐集・活用・譲渡がどのように行われたかを明らかにする。

4. 本研究の成果

本研究による成果は以下の通りである。

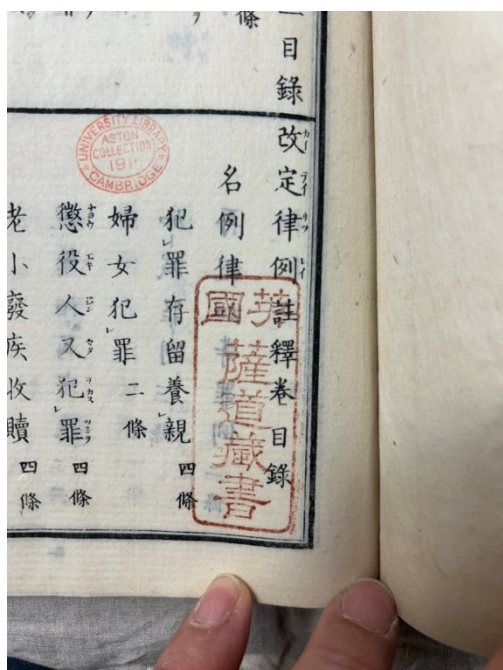
まず、大英図書館所蔵のサトウ旧蔵書は、a サトウ自身によって売却されたもの、b アンダーソンによって売却されたもの、c パットン牧師によって売却されたものの3種存在するが、大英博物館の受け入れ印により、a は 1868 年、1871 年 10 月 3 日、1878 年 7 月 15 日、1884 年 9 月 22 日、1885 年 6 月 13 日の4度にわたり、b は 1882 年 7 月 27 日、1894 年 2 月 13 日、1894 年 3 月 21 日の3度にわたり、c は 1906 年 4 月 7 日に売却されたことが明らかになった。これらの中でもっとも早い時期に属する a は大広益会玉篇、次いで早い a は古言梯である。前者には蔵書印がないが、後者には「さとう」の蔵書印があり、これはのちに常用される二種類の「英国薩道蔵書」に先行する古い蔵書印と考えられ、今後この蔵書印が捺されたサトウ旧蔵書は 1871 年 10 月以前にサトウが入手したものであるとしてよい。また、b のアンダーソン売却のサトウ旧蔵書はすべて挿絵のあるもので、サトウがアンダーソンの日本美術史研究に資するために譲渡したものである。さらに、c パットン牧師売却のサトウ旧蔵書はすべて仏教書であり、パットン牧師については残念ながら調査が及んでいないが、19 世紀から 20 世紀にかけての時代の英国に日本や極東における仏教について関心を持つキリスト者（牧師）がいたことを示しており、興味深い。

次に、上記サトウ常用の二種類の蔵書印の先後について調査を行った。サトウにはやや



A 印「英国薩道蔵書」

幅広で楕円状の蔵書印（A 印）とやや細長の長方形の蔵書印（B 印）があったことはこれまでも知られていたが、かつて吉良芳恵が紹介した旧武田家資料（横浜開港資料館所蔵）中のサトウの蔵書目録「蔵書目録全」所載の和書を、それらの多くが現存するケンブリッ



B印「英国薩道藏書」

ジ大学図書館において実地に調査したところ、そのほとんどにA印が捺されていることがわかった。上記目録には所載の和書の購入価格が記されているが、その多くは明治4年（1872）の新貨条例で円が導入される以前の通貨（両、分、文、朱、匁）である。また、B印は明治4年以後比較的新しい時期に刊行された和書に捺されていることはこれまでの調査でも確認されている。これらのことから、A印はB印に先行する蔵書印で、上記の「さとう」印のあとに正式の蔵書印として常用されたものであることが明らかになった。A印が捺されたサトウ旧蔵和書はサトウのコレクションの中でもより早い時期に入手したものと推定することが可能となった。

遺憾ながら、国内外のサトウ旧蔵和書を悉皆調査することはできなかったが、本研究によってA印が捺されていることを確認した和書を次に掲出しておく。

1) **大英図書館** 秋の夜長物語、絵本太閤記、絵本忠臣蔵、応仁記、お伽草子、源氏物語、源氏物語諸巻年立、狭衣、承久記、住吉物語、とりかへばや物語、梵学雑名、明德記、物草太郎、

2) **ケンブリッジ大学図書館** 泰平年表、国史略、日本外史、校正日本書紀、訂正古訓古事記、源平盛衰記、東鑑、書紀集解、続日本紀、続日本後紀、神皇正統記、水鏡、大鏡、増鏡、百人一首一夕話、和歌八代集、万葉集略解、源氏物語、土佐日記考証、更級日記、古事記伝、古史伝、本朝神社考、音訓国字格、和漢三才図絵、倭名類聚鈔、英政如何、大内裏全図、延喜式、近世野史、元治夢物語、政談、玉勝間、同文通考、大和名所図会、藩翰譜、新撰姓氏録、匠家雑形、紅楼夢、赤穂義士伝一夕話、集古十種、日光山志、倭訓栞、神徳集、群書一覽、伊吹蓬、いろは文庫、娘太平記操早引、

3) **日本大学文学部図書館** 年山紀聞、喜多比沙志、答問録、通議、神祇要編、伊勢

大神宮神異記、神社啓蒙、伊勢二宮さきたけの弁、四書集註俚諺鈔、再刻頭書誌経集伝、周易、礼記集説、小学集成、退食間話、憲法類編、改正増補地方凡例録、制度通、改訂律例、官職通解、御成敗式目、儀式、江家次第、日本政記訳語及補遺、外史訳語、神代紀伝、赤泉太古伝、倭読要領、奥儀抄、歌辞要解、皇典文彙、謡曲狂言抄、神代文字考、雅言童喩、訳文筌蹄初編、倭楷正訛、草書法要、泰西薬名早引及附録、写真鏡図説初編、

4) 愛知教育大学附属図書館 神祇要編

なお、上記のうち、3) の日本大学文理学部図書館蔵サトウ旧蔵和書は本サトウよりチェンバレンに譲渡された和書で、それらの多くにA印が捺されていることは、サトウがチェンバレンの来日以前に入手した和書を選んで彼に譲渡した可能性がある。

なお、2020年初めごろからの新型コロナウイルスによるパンデミックにより3年ほどの間、国内調査・海外調査がほとんどできない甚大な影響を受けたほか、2023年11月の大英図書館に対するサイバー・アタックによって、その後貴重書の閲覧が一切不可能となって現在も再開の見通しがたっていないなど、本研究は進捗上大きなダメージを被った。そのため、予定していたオックスフォード大学図書館およびブリストル大学図書館での実地調査は見送らざるをえず、大英図書館・ケンブリッジ大学図書館での実地調査も不十分であった。今後は改修工事に入った横浜開港資料館も含めて、調査環境の復旧を待って、遺された実地調査を行っていきたいと考えている。

それでも、本研究の研究期間中に入手した資料は膨大な数に上っており、これらについては今後鋭意整理検討を続けていく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------